

「世界が泣いた4分間!!」

会長、そしてIOC委員の皆様。佐藤真海です。

私がここにいるのは、スポーツによって救われたからです。スポーツは私に人生で大切な価値を教えてくださいました。それは、2020年東京大会が世界に広めようと決意している価値です。

本日は、そのグローバルなビジョンについてご説明いたします。(中略)

私自身の話に戻らせていただきます。19歳のときに私の人生は一変しました。私は陸上選手で、水泳もしていました。また、チアリーダーでもありました。そして、初めて足首に痛みを感じてから、たった数週間のうちに骨肉腫により足を失ってしまいました。

もちろん、それは過酷なことで、絶望の淵に沈みました。でもそれは大学に戻り、陸上に取り組むまでのことでした。私は目標を決め、それを越えることに喜びを感じ、新しい自信が生まれました。そして何より、**私にとって大切なのは、私が持っているものであって、私が失ったものではない**ということを知りました。

私はアテネと北京のパラリンピック大会に出場しました。スポーツの力に感動させられた私は、恵まれていると感じました。2012年ロンドン大会も楽しみにしていました。

しかし、2011年3月11日、津波が私の故郷の町を襲いました。6日もの間、私は自分の家族がまだ無事でいるかどうかわかりませんでした。そして家族を見つけ出したとき、自分の個人的な幸せなど、国民の深い悲しみとは比べものにもなりませんでした。

私はいろいろな学校からメッセージを集めて故郷に持ち帰り、私自身の経験を人々に話しました。食糧も持って行きました。ほかのアスリートたちも同じことをしました。私達是一緒になってスポーツ活動を準備して、自信を取り戻すお手伝いをしました。

そのとき初めて、私はスポーツの真の力を目の当たりにしたのです。

新たな夢と笑顔を育む力。

希望をもたらす力。

人々を結びつける力。

200人を超えるアスリートたちが、日本そして世界から、被災地におよそ1000回も足を運びながら、5万人以上の子どもたちをインスパイアしています。

私達が目にしたのは、かつて日本では見られなかったオリンピックの価値が及ぼす力です。

そして、日本が目の当たりにしたのは、これら**貴重な価値・・・卓越、友情、尊敬・・・が、言葉以上の大きな力をもつ**ということです。

(東京五輪プレゼンスピーチ全文:佐藤真海)

「障 害」

からだに障害をもつ人が言いました。

「私たちは、まだしあわせなのかもしれません。私たちの障害や苦しみは目に見えるので、支えて、励ましてくれる人がいます。あたたかな人のやさしさに触れ、感動することもあります。でも、心病む人は、見ただけではわかりにくく、誰もその人の心の痛みに気づかないかもしれません。人のやさしさやぬくもり、心のつながりを最も求めている人達なのに。それがかなわないからこそ引きこもったり、落ち込んだり、明るさを装ったりしているのに」

健康な人が、からだに障害をもつ人の車椅子を押しながら言いました。

「障害をもって生まれた人は、私たちに、やさしさと愛を育てるために、その使命をもって生まれてくれた人なのではないかと思うようになりました。
“すみません”と言わずに、いつでも笑顔で“ありがとう”というあなた人間の尊厳や、感謝することを教えていただきました。健康なからだをもっていながら、自分に全然自信がなかった私が、あなたの役にたっていることあなたに必要とされることで、どんなにあなたから生きるエネルギーをいただいているかはかりません」

(もどっておいで私の元気:岡部明美)

東京オリンピック誘致の佐藤さんのスピーチに感動しながら、岡部明美さんの詩を思い出し今回の「心の栄養剤」としました。

私自身、現在のところ五体満足で、食べられ～動け～話して～生活しているのに、つい愚痴を言ったり怒ったりしている。

もっと感謝の気持ちをしっかり持って、一人でも多くの人のお役に立てるように過ごさなくては・・・

特に私の場合、毎日仕事上でも身体や心の悩み・苦しみに直面されている方にお逢いするので、もっとしっかり全身全霊で受け止めれる人間力を身に付けて、お客様と向かい合えるようにならなければと今更ながら自分自身に言い聞かせました!!

PS

東京オリンピックの開催時に私は61歳となつてはいるはず
なんですが・・・どんな感じでオリンピックを迎えているのだろう・・・!?
私もそれまで一日一日、一年一年、オリンピック選手に負けないくらい大切に過ごそう!!

